



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町 2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL http://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2018年10月31日



デモ機を使いAED使用法を学ぶ

問屋町防災訓練は東日本大震災を教訓に、組合員の防災意識向上を図るべく2013年から開始し、今年で6年目となる。組合では、組合員の防災意識の高揚を図り災害時や緊急時に迅速な対応ができるよう、今後も防災訓練を継続して実施する。

訓練の最後は、炊き出し訓練を実施。長期間保存可能で水やお湯を注ぐだけで食べられるアルファ米や非常食を全員で試食。配給も参加者が行い、訓練は終了した。

今回は、開催日の5日前に北海道で最大震度7を観測する地震が発生したこともあり、参加者も訓練に熱が入り、講師の話に真剣に耳を傾けていた。

同講習会では、(株)AGSコンサルティングの取締役であり税理士でもある和田博行氏が講師を務め、軽減税率の対象品や処理方法、区分記載請求書と適格請求書についてなど、具体的な事例を交えて解説した。また、軽減税率導入に伴い必要となる複数税率対応レジや受発注システムの改修に対する補助金についても紹介した。



軽減税率制度講習会

軽減税率制度は、2019年10月に消費税が10%に引き上げられることに伴い導入され、「酒類・外食を除く飲食

消費税軽減税率導入に備え講習会を開催

9月21日(金)に、消費税軽減税率制度講習会が問屋町会館1階会議室で開催された。講習会は、組合の上部団体である全国卸商業団地協同組合連合会の協力を得て、青森卸売業協と合同で開催。両組合から合わせて33名が参加した。



起震車で大地震の揺れを疑似体験



2階大会議室のこけら落としとなった防災訓練

東日本大震災から7年半 防災訓練で地震に対する備えなど学ぶ

東日本大震災から7年半を迎えた9月11日(火)、第6回問屋町防災訓練が問屋町会館2階大会議室で開催された。淡路大震災や十勝沖地震など、過去の大地震を再現した揺れを体験。参加者は震度7レベルの揺れを疑似体験することで、地震への危機意識を高めた。その後は会場を移し、地震発生時に取るべき行動や自備えや救命訓練法などを学んだ。今回の訓練では、会館駐車場に起震車を設置し、阪神・淡路大震災や十勝沖地震など、過去の大地震を再現した揺れを体験。参加者は震度7レベルの揺れを疑似体験することで、地震への危機意識を高めた。その後は会場を移し、地震発生時に取るべき行動や自備えや救命訓練法などを学んだ。

主防災組織などについて説明を受けた。

その他、救命訓練では、胸骨圧迫の基準となる深さ5センチほど押しと音が鳴る仕組みのクッションを使って心肺蘇生法の手順を体験。また、訓練用AEDを使い、音声案内に従ってAEDの使い方についても学んだ。

問屋町ストアのリニューアルについて承認

第6回理事會

第6回理事會が9月26日(水)に問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。また、事務局からは、問屋町会館2階の大会議室及びトイレの改修についてなどを報告した。

主な案件審議は次のとおり。
案件一・事業委員会からの意見について
問屋町ストアのリニューアルについて承認された。

案件二・労務対策委員会からの意見について
第42回問屋町ボウリング大会

問屋町従業員親睦交流会

第6回問屋町従業員親睦交流会が9月7日(金)にホテル青森で開催された。

同交流会は、前回までは20代、30代を対象に開催していたが、今回は、30代、40代の中堅社員を対象に開催。組合員従業員ら34名が参加した。

交流会では1人ずつ自己紹介したほか、より多くの参加者と交流できるよう2回の席替えを実施。共通の話題も多く会話も弾み、参加者は時間を忘れて親睦を深めていた。

参加者からは「参加者の年代が上がったことで交流がスムーズにできた。色んな業種



従業員親睦交流会

会の開催やインフルエンザ集団予防接種の実施についてなどが承認された。
案件三・組合員の組織変更に伴う出資金等の承継について
案件四・組合施設の賃貸及び新規組合員の加入承認について
案件五・組合会館改修費の借入について
案件六・つなぎ資金の借換について
案件七・新年会の開催について
案件八・2018年度第7回理事會の日程等について
理事會終了後には、青森卸センター(株)の第3回取締役会も開かれ、提出案件全てが原案どおり承認された。

公共施設等視察會

公共施設等視察會が9月20日(木)に行われ、西理事長、柳谷副理事長をはじめ、組合員ら17名が参加した。

今回視察に訪れたのは青森県西目屋村。「BUNACO(ブナコ)西目屋工場」や「津軽ダム」を見学した。

ブナコ西目屋工場は廃校となった旧西目屋小学校の校舎を活用し2017年4月にオープン。教室は製作の作業場として活用し、給食室はカフェにリノベーションされた。工場は見学自由で製作体験もできる。

同友会・青友会合同交流会

青森問屋町経営同友会(同友会)と問屋町支店長・所長連絡会(青友会)の合同交流会が9月21日(金)、ホテル青森で開催された。交流会には両会会員及び事務局職員合わせて39名が参加した。

合同交流会は、組合員の若手経営者および後継者で組織される同友会と、問屋町内の支店、営業所の団地内責任者で組織される青友会との親睦交流を目的に2014年からスタートし、今回が5回目の開催となった。懇親会では、恒例の参加者全員による1分間スピーチでお互いを知り、

その後の会話に花を咲かせるのに一役買った。

9月27日(木)、協富山問屋センターの長沼理事長をはじめ10名が、当卸団地に視察来所した。



同友会・青友会合同交流会



ブナコの製作工程を見学

「ブナコ」は日本を代表するプロダクトとして、世界の高級ホテルで採用され、有名セレクトショップでも取り扱われる。洞爺湖サミットでは各国首脳への手土産にブナコのトレイが採用されるなど、国内外で高い評価を得ている。



津軽ダム内部で説明を聞く

2017年4月に完成した津軽ダムの視察では、ダム職員の解説を聞きながら、普段入ることのできないダム内部も見学。人気の水陸両用バスに乗り、ダムによって形成された人造湖「津軽白神湖」も周遊した。



富山問屋センターが来訪

西理事長の歓迎のあいさつの後、藤本専務理事が当卸団地の事業概要や重点事項等を説明。組合運営について意見交換や情報交換が行われた。その後、一行は、バスで団地内を見学した。

正確に！迅速に！
【ホットなコミュニケーション】
小電力業務連絡無線は、工事現場、各種イベント会場、そして遊園地や球場などのレジャー施設などで幅広く活用できるコンパクトサイズ。作業中でも両手を使わず操作ができ、高度な機能をフル装備のすぐれもの！
“一般業務用無線、防災行政用無線、その他通信関連機器取扱”

株式会社 東 晴
代表取締役 雪田 清紀
〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目2-6
TEL 017-739-7088 FAX 017-739-3513

創業 明治 39 年

- 計量器製造(経済産業大臣) ●計測器修理(青森県知事)許可
- 建設業登録 ●機械器具設置工事業(青森県知事)許可(般・26)第15046号
- 電気通信工事業(青森県知事)許可(般・26)第15046号

健康管理測定用機器 (体組成計・血圧計・活動量計他)
レタースケール・キッチンスケール・アルコール検知機
測量機器・測定機器・観測機器・気象観測機器・試験機

青森 株式会社 西衡器製作所

本社 030-0801 青森市新町二丁目6番20号 TEL(017)773-1311 FAX(017)723-2368
青森支店 030-0113 青森市第二期問屋町四丁目2番30号 TEL(017)739-9555 FAX(017)739-9557
八戸支店 039-1121 八戸市卸センター一丁目5番16号 TEL(0178)21-8100 FAX(0178)21-8101
弘前支店 036-8093 弘前市城東中央三丁目4番14号 TEL(0172)26-3890 FAX(0172)26-3891

青森県の最低賃金改定

2018年10月4日より青森県最低賃金が「1時間762円」に改正された。改正前の青森県最低賃金738円から24円の引き上げとなり、引き上げ額は平成に入ってから最大となった。

業務報告

主要事項

9月
1日▽簡易郵便局業務研究会
2日▽第2回緑のボランティア

ア隊
6日▽商団連事務局長会議
7日▽第6回問屋町従業員親睦交流会
11日▽第6回問屋町防災訓練
12日▽県中央会中小企業団体全国大会(14日)

20日▽公共施設等視察会
21日▽第2回労務対策委員会
24日▽フルーツバイキング
25日▽安協問屋町支部第3回街頭指導
26日▽第6回理事會

：問屋町
ビジネススクール：
5日▽商業簿記3級取得講座①
6日▽総務力向上研修(生産性向上編)
12日▽スキルアップセミナー(説明編)
13日▽Y.S.C.L.U.B.③
19日▽商業簿記3級取得講座③
25日▽時間を生み出すダンドリ力①
26日▽商業簿記3級取得講座④
27日▽時間を生み出すダンドリ力②

「経済雑感」シリーズ第44弾は、(一財)青森地域社会研究所の竹内常務理事にご寄稿いただいた。

経済雑感

第八十九回

一般財団法人 青森地域社会研究所
常務理事 竹内 紀人

私が人口減少に関する調査を進める中で気になっていたのは、人々の興味の大半が「地元需要の減少」に向かっていることだ。それは「人口が減少しているの

では人口減少のせいだからどうしようもない、という認識がまだまだ多い。しかし、一般消費者が漠然とそう感じて

るならば、供給側にいる経営者の方々が同じような感覚でいるなら非常に困ったことだ。人口減少が地域に

もたらしている最大の課題は、需要の減少ではなく、供給力の弱体化につながっていることである。



(一財)青森地域社会研究所 常務理事 竹内 紀人 氏

数多くの企業の経営改革に携わった経営共創基盤のCEO 富山和彦氏は、著書『なぜローカル経済から日本は魅

惑のか』(2014・PHP研究所)の中で、「地方は疲弊していて仕事がなく、結果

市には28万人を超える住民がいる。必要であれば市外や県外、海外にも需要を求めることができる。インバウンド客を含め、観光客も増加を続けている。問題が需要不足でないことは明らかだ。

一方、需要は依然として健在である。今なお、青森市には28万人を超える住民がいる。必要であれば市外や県外、海外にも需要を求めることができる。インバウンド客を含め、観光客も増加を続けている。問題が需要不足でないことは明らかだ。

SUNPOT サンポット株式会社
家庭用ストーブから大規模施設暖房システムまで環境対応型総合暖房機器メーカー

かねへい食品株式会社
代表取締役社長 齊藤 諭
青森本社 青森市問屋町二丁目18-11 TEL (017) 738-4341

東日運送株式会社
代表取締役 庄子 哲朗
http://www.8tohnichi.co.jp/
【業務内容】
・半導体機器輸送(超精密機器)

KOSEKI コセキ株式会社
【事業内容】
●医療機器・システム・ネットワークの提案・販売・施工・メンテナンス
●情報・映像システム等企画・提案設計・施工・メンテナンス

側溝の泥上げを実施

組合では8月に問屋町地区の側溝泥上げ作業を実施した。本来、側溝の泥上げは組合員が実施しなければならぬが、蓋の老朽化や汚泥の詰まりにより作業が困難であるこ



専用の器具を使い蓋を開ける



側溝泥上げ作業箇所

とから、組合が専門業者に依頼し、2016年から実施。今年で3年目となる。今回は問屋町2丁目西側地区の側溝の泥上げを行い、堆積した汚泥の厚さが30cmを超える箇所もあり、総回収量は土のう袋2千袋あまりとなっ

た。側溝の泥上げは来年度も実施する計画で、これで問屋町地区の作業は終了する予定である。

秋の味覚を家族で味わう フルーツバイキング

人気企画の問屋町フルーツバイキングが、9月24日(月)祝)に青森観光りんご園で開催された。同イベントには、今回も多く家族連れが集まり、大人子ども合わせて64名が参加した。



フルーツバイキング

やぶどう、梨などを味わった。また昼食では、新鮮野菜や県産肉のバーベキューのほか、イベント当日が十五夜だったこともあり餅つきを体験。出来たてのお餅で作った雑煮が振る舞われ、参加者は思う存分、秋の味覚を楽しんだ。

団地企業訪問

今回の団地企業訪問では、今年の5月に組合員となった(株)アピイの濱田社長にお話を伺った。

同社は平成26年6月に創業し、住宅型有料老人ホームの運営や訪問介護、介護用品・福祉用具のレンタルや販売など、介護支援事業全般を青森市内中心に展開している。

「長年働いてきた介護の現場で経験を活かして、入居者に喜んでもらえるような環境作りがしたい」という思いから4年前に起業しました。現在当社で運営している住宅型老人ホームは洋がテーマの「アピイライフ」と和がテーマの「アピイコレ」の2棟あり、「美・食・住」をコ

ンセプトにこだわりの居住空間・環境を提案しています。特に当社では目でも楽しめる食事として、こだわりの食材を使った彩り豊かな美味しい手作り料理を提供しており、食器一つ一つの配慮も欠かしません。月に一度入居者やその家族、職員も一緒に楽しむバイキングを行っています。8月からは工夫と努力を重ねて完成した手作りのソフト食をメニューとして提供できるようになりました。また食だけではなく月に2回、理・美容室とエステを行っており、お洒落を楽しむことができる環境を整えています。施設には看護師が昼夜常勤しており、医療機関とも連携



(株)アピイ 代表取締役 濱田 美香子 氏

今後の取組みについて聞くと「ベルアピイ」というブランドを立ち上げ、今までにない介護用エプロンを開発しました。今後、県外や海外への販売を考えていると共に、ベルアピイのブランド商品を増やし広くPRしていきたいです。また、職員への人材育成にも力を入れ、一人ひとりが輝ける職場環境を作っていきたいと思っています。そのためには会社が個人の成長を妨げないように自分自身が様々な勉強をし会社を成長させ、職員が目標に向かって頑

く頑張りたいです。また、職員への人材育成にも力を入れ、一人ひとりが輝ける職場環境を作っていきたいと思っています。そのためには会社が個人の成長を妨げないように自分自身が様々な勉強をし会社を成長させ、職員が目標に向かって頑

く頑張りたいです。また、職員への人材育成にも力を入れ、一人ひとりが輝ける職場環境を作っていきたいと思っています。そのためには会社が個人の成長を妨げないように自分自身が様々な勉強をし会社を成長させ、職員が目標に向かって頑

編集後記

今年はまだ2ヶ月を残していますが、様々な自然災害に遭いました▼年初の北陸豪雪。4月に大阪府北部・6月に鳥根県西部で地震があり。7月の西日本豪雨。9月には、21号24号の大型台風と北海道胆振東部地震がありました▼何時・何処でもありうる自然災害。4、5年もすると風化する防災意識。今後とも災害・緊急時に迅速な対応ができるよう問屋町防災訓練は継続したいと思えます▼転話題。先号に続き宮崎大・吉田教授の『地方の創生・活性化/卸団地の役割』についてです▼今回は「自治体とどう付き合うか」という面白いテーマです。自治体の業務は次の4つの機能に分けられるとのこと▼①意思決定機能(企画部・財政課など) ②法令執行機能(環境・建築など) ③予算執行機能(福祉保健、教育など) ④地域経済振興・雇用確保・税収確保機能(商工・企業誘致など)

- ①は交渉力がある人が向く。②は、真面目・堅実な人が向く▼問題は④である。④は民間と同じ発想・行動ができる人が向く、加えて10年以上の年季が必要▼④は、仕事ができる人が人事異動すると業務は停滞し、部署のパフォーマンスがゼロにもなりうる。とのこと▼自治体を含め豊富な行政経験のある吉田ならではの言である▼地方創生の成功事例は少なくとも10年は努力を継続することが必要であり、キーパーソンを変えないでノウハウを蓄積する必要がある▼地方振興は、地域の企業・役所・団体があっても連結グループ企業のように一体とならなければならぬ。(藤本)



Aomori.Peace.Environment
青森一の優しさで

- 住宅型有料老人ホーム アピイライフ (40床)
- 住宅型有料老人ホーム アピイコレ (45床)
- 居宅介護支援事業所 アーサス
- 訪問介護事業所 / 障がい福祉事業所 アーサスケア
- 福祉用具貸与・販売 アピイライフエイド

株式会社アピイ 青森市問屋町1丁目7番地21
TEL 017-757-8681/FAX 017-757-8677

